

第12回伝統文化大会 ～ 指定課題・解説 ～

第12回全国書写書道伝統文化大会（全国年賀はがきコンクール、全国学生書き初め展覧会）は令和6年1月20日（日）に締め切り予定です。コロナ禍による行動制限は緩和されましたが、苦難の日々は続いています。防疫に完璧を期しながら、夢に向かって、希望に満ちて動こうではありませんか。

そうした気持ちで、当大会指定課題を構成しました。時節柄、指導者の負担軽減も考慮し、今回も手がけたことのある過去の出題課題からほとんど選出しました。出品料等は同大会実施要項にあります。皆さん、奮って応募しましょう。

自由課題（書き初め展のみ）は、学習指導要領に準拠

全国学生書き初め展には自由課題の部があります。自由課題文言は書写書道教科書からとるなど自由ですが、使用する漢字の学年配当等について学習指導要領に準拠していることが求められますのでご注意ください。つまり、その学年ではまだ習っていない漢字は使えません。何という文言を書いているか、出典名を作品の下に貼る出品票に（出典元がある場合は必ず）お書きください。

課題の文言が同じでも用紙の大きさが違えば3点まで応募できますが、審査結果による授賞は再上位の1点だけとなります。

◆使用漢字

学年後半のコンクールなので、該当学年で習う漢字を使っています。令和の令は4年生配当、元旦の旦は中学生で習う常用漢字です。

◆用紙の大きさ等

用紙の大きさ、名前の書き方などは、第12回実施要項の出品料等まとめた出品規定表にあります。ご参照ください。

全国年賀はがきコンクール＜指定課題＞

＊指定用紙は書文協作成応募用紙または郵便はがき（詳細は書文協へ）

◆年少・年中

たつ
（なまえ）



◆年長
おめでとう
(なまえ)



◆小1
おめでとう
きちんとあいさつ。
六年正月
小一(しめい)



◆小2
おめでとう
早くみんなに会いたいな。
六年正月
小二(しめい)



◆小3
おめでとうございます
今年は百人一首をおぼえます。
六年正月
小三(しめい)



◆小4
新年おめでとう
ございます
ていねいな言葉を使う
ようにします。
令和六年正月
小四(氏名)



◆小5
新年おめでとう
ございます
たくさん本を読み、知識を
深めたいと思います。
令和六年正月
小五(氏名)



◆ 小 6

明けまして
おめでとうございます
自分の考えを持って、多
くの人の意見を聞きます。
令和六年正月
小六（氏名）



◆中学（楷書、行書同一）

明けまして
おめでとうございます
異文化理解を深め、平和に
ついて考える一年にしたいと
思います。
令和六年正月
中一、二、三（氏名）

◆高·大·一般（行書）

謹賀新年
手書きの意義を理解し、
日本語を継承発展させ、
伝統文化を守ります。
令和六年正月
(氏名)

全国学生書き初め展覧会＜指定課題＞

* 指定課題の用紙は、幼年～小2は半紙、小3～中3は八ツ切、高校・大学生は半切です。（他自由課題の用紙等、実施要項を参照）

◆年少・年中 つ
(なまえ)

◆年長 ゆ
(なまえ)

◆小 1 たつ
小一（しめい）

◆小 2 みち
小二（しめい）

◆小 3 正しい心
小三（しめい）

◆小 4 字を書く
小四（氏名）

◆小 5 大切な命
小五（氏名）

◆小 6 一念発起
小六（氏名）

◆中 1（楷書・行書） 広い視野
中一（氏名）

◆中 2（行書） 無心に挑戦
中二（氏名）

◆中 3（行書） 至誠天に通ず
中三（氏名）

◆高校

＜漢字＞ 吾道一以貫之
＜かな＞ 日本がここに集る初詣

◆大学

＜漢字＞ 兩岸猿声啼不住
輕舟已過万重山
＜かな＞ 春は花夏ほととぎす秋は月
冬雪さえてすずしかりけり



課題解説

課題解説は教場の指導者を対象に書いています。用語も成人用の言葉を使っています。生徒さんに説明する時の参考にしてください。コンクール出品を機に、生徒さんと課題を巡る話が交わされることを期待しています。

<全国年賀はがきコンクール>

◆毎年呼び方を決めた十二支（十二支）によると、来年 2024 年は辰年です。動物が神様の召集に駆けつけた順番で決まったと言われる十二支の中で、辰は唯一の架空の動物です。なぜ入ったのか、分かっていませんが、なんだかユニークな感じがしますね。十二支の順と呼び方は以下の通りです。

子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、
卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、
午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、
酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）



◆年長 賀詞

「おめでとう」は賀詞（がし）の一つです。賀詞とは、年賀状に限らずにお正月に使われるお祝いの言葉のことです。「寿」「賀正」「謹賀新年」「あけましておめでとうございます」など実に豊富で、日本語の豊かさを感じさせてくれます。



◆小3 百人一首

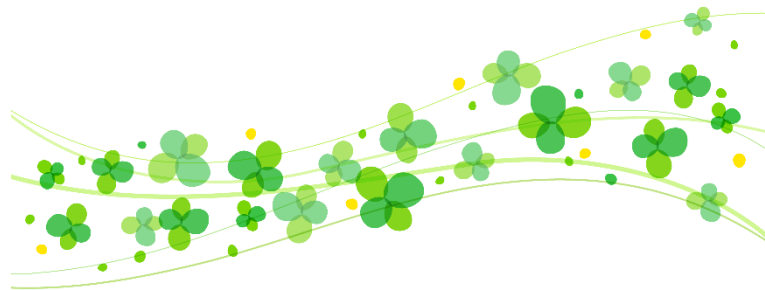
百人一首とは平安末期～鎌倉初期の歌人・藤原定家（ふじわらの さだいえ）が、和歌のすぐれた百人の作品から一人一首ずつ選んだ歌集の事です。その歌を、上の句（五、七、五文字）と下の句（七、七文字）に分けて、上の句を読み上げて、下の句を取りあう「百人一首カルタ」はお正月の遊びの定番となりました。

◆小4 ていねいな言葉

丁寧（ていねい）語とは、話し手や書き手が言い回しを丁寧にすることで、話の聞き手に敬意を示す言葉です。代表的なものとして、尊敬語と謙譲語があります。

尊敬語は、相手や話題に上がっている人に対して述べる敬語です。動作や状態などを持ち上げて、その人物を立てる形で敬意を表します。例えば、「召し上がる」「お聞きになる」「いらっしゃる」などが尊敬語にあたります。

謙譲語は、自分や自分の属する組織の動作をへりくだることで、話の相手や話題に上がっている人に対して敬意を表す表現です。尊敬語のように相手を持ち上げるのではなく、自身の動作や状態を下げた言い回しをすることが特徴です。例として、「拝見する」「参る」「申し上げる」などが謙譲語にあたります。



◆中学 異文化

異文化とは、価値観や言語、習慣や行動様式など、自分が親しんでいる文化と異なる文化の事を言います。同じ国内でもあるわけですが、ここは外国としましょう。中国は大昔、漢字をもらった同文の国です。

しかし、文化はいろいろ異なります。そこをよく分かることが大切です。

書道は今、中国でもとても盛んです。書道の交流を通して、互いの文化の違いを知ることができますよ。



◆高・大・一般 手書き

文化庁の文化審議会は 2010 年の答申で、手書きの重要性を指摘しています。繰り返し漢字を書くことで、脳が活性化され、習得につながります。手書きの文字には、書き手の個性も表れるため、日本の文化としても大切だと位置づけました。手書きの文化（書字文化）は日本の誇るべき文化なのです。

<全国学生書き初め展>

◆小1 たつ

(全国年賀はがきコンクールの年少・年中の欄とおなじ)



◆小3 正しい心

「正しい」とうのはとても曖昧な言葉ですが「人のため、世の中のためになること」と思えばいいのではないのでしょうか。迷わない生き方をするなら、正しい心を持つことです。素直で正直になり、人としての良識を身につけることです。道徳にのっとった生き方をするということです。正しい心を持てば、自然と進むべき道が見えます。そのように生徒さんたちに教えてあげてください。



◆小6 一念発起

もと仏教のことばで、歎異抄（たんにしょう）という仏教書にあります。仏道に帰依し、悟りを得たいと固く念ずること。「一念」は、ひたすら思いこむこと。「発起」は、信心を起こし、仏に帰依すること。出家すること。

ここから、それまでの考えを改め、あることを成し遂げようと決心し、熱心に励むこと、を指す言葉となりました。

◆中3 至誠天に通ず

漢文では「至誠通天」。中国の儒学者・孟子の言葉です。至誠とは極めて純粋な真心のことを言い、「誠の心を尽くして行動すれば、いつかは必ず天に通じ認められる」という意味です。

◆高校漢字 吾道一以貫之

吾が道は、一以って、これを貫く

紀元前6世紀から5世紀にかけて中国で活躍した思想家、孔子とその弟子たちの言行録である「論語」に出てくる言葉です。一つのもの（仁）で万事を貫くこと。孔子が、仁を以ってあらゆる事柄に対処していこうという信念を述べた言葉です。

◆高校仮名 日本がここに集る初詣

昭和から平成にかけて活躍した俳人、山口誓子（やまぐち せいし）の俳句です。初詣（はつもうで）とは年が明けてから初めて神社や寺院などに参拝する行事。一年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりします。

参拝者数はメッカの大巡礼を越す世界最大級の宗教行事と言われています。「日本がここに集まる」というのは、人混みばかりではなく、日本中の心も集まってくるということ。お正月を代表する日本の伝統的な習俗です。



◆大学漢字 兩岸猿声啼不住 輕舟已過万重山

中国の盛唐詩人で詩仙とも称された李白の作「白帝城」の一部です。

兩岸の猿声 啼いて住まず 輕舟已に過ぐ 万重の山

りょうがんのえんせい ないてやまず

けいしゅうすでにすぐ ばんちょうのやま

白帝城は、長江を約 600 キロも下る様子を詠んだ漢詩。長江は全長 6300 キロにも及ぶ世界 3 位の大河。歌に詠まれたあたりは、長江のなかでも急流で有名です。課題の部分は「兩岸では猿の鳴き声が絶え間なく、軽やかな小舟が、幾重にも重なった山々を通り抜けていった」様子を詠んだものです。

◆大学仮名

春は花夏ほととぎす秋は月 冬雪さえてすずしかりけり

曹洞宗を開いた道元禪師の和歌です。道元（どうげん）は 13 世紀の鎌倉時代初期の禪僧で、日本における曹洞宗の開祖。総本山は福井県の永平寺です。

和歌は自然の美をありのままに読んだもので、その言葉自体が禪を説いているとも言えます。

